

マイナポータルAPIの最新動向

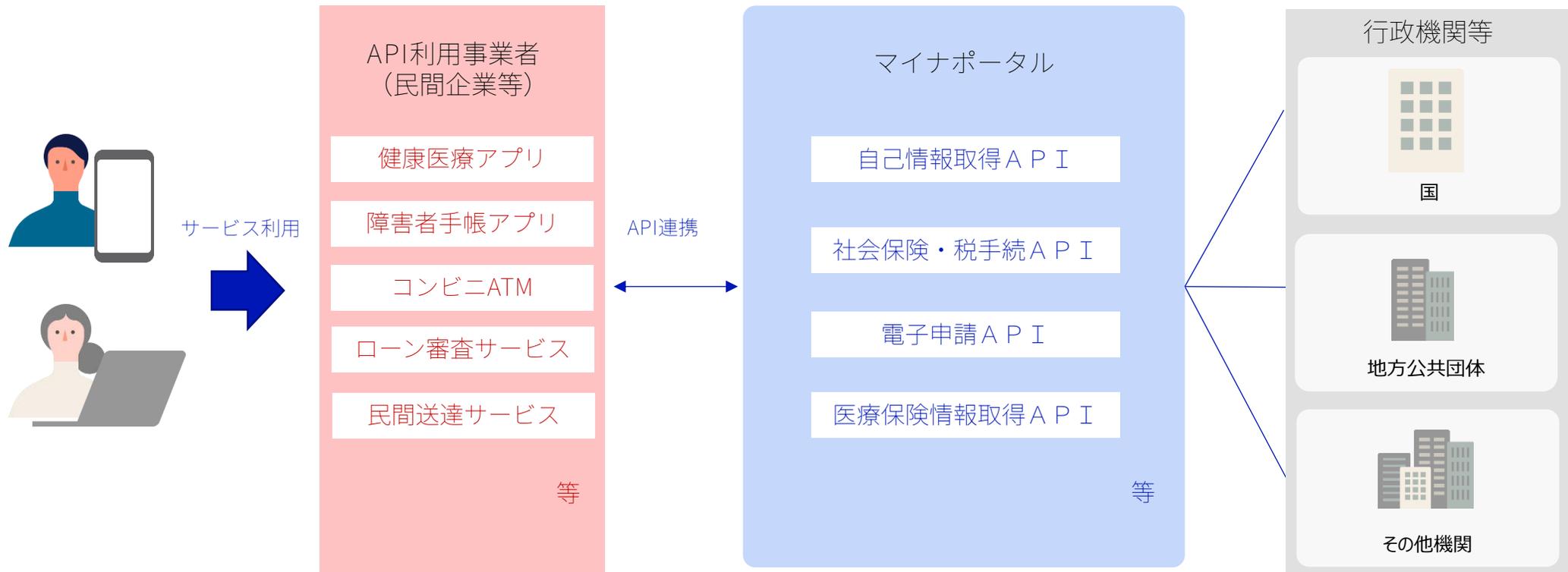
2026/03/05 デジタル庁国民向けサービスグループ

1. マイナポータルAPIについて

2. API利用拡大に係る取組状況について

マイナポータルAPIとは

- マイナポータルで提供する機能を、サービス提供者が利用できるようAPIを提供することで、官民の様々なサービスにおけるデータ利用・利便性向上を推進する仕組みです。
- 近年では、特に健康医療領域において取得できるデータの拡大や、APIを利用するサービス・ユースケースの拡大が顕著であることから、本日マイナポータルAPIの最新動向につきご説明いたします。



(参考) 提供中のマイナポータルAPI

#	名称	取得可能データ
1	シングルサインオン	
2	民間送達接続	
3	自己情報取得 (★)	税・所得、年金、戸籍、雇用保険等、自治体が保有する各種情報
4	お知らせ情報取得	行政機関からのお知らせ
5	民間送達サービス保有情報取得	
6	医療保険情報取得 (★)	医療費、薬剤、処方、調剤、健診結果、診療の情報 (オンライン資格確認等システム経由)
7	PMH情報連携 (★)	医療費助成、予防接種、母子保健情報 (Public medical Hub経由)

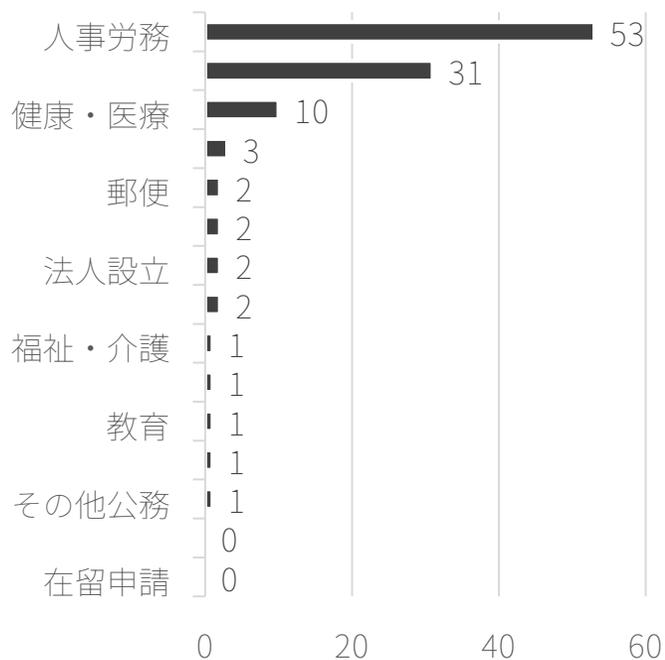
#	名称	取得可能データ
8	期間連携 (★)	#6の情報が90日間更新可能
9	法人設立手続等申請	
10	社会保険・税手続申請	
11	電子申請等	
12	電子申請等情報受取等	
13	健康保険証利用登録	
14	利用者登録等	
15	属性連携設定	
16	在留手続申請	

※ (★) : 情報開示系API

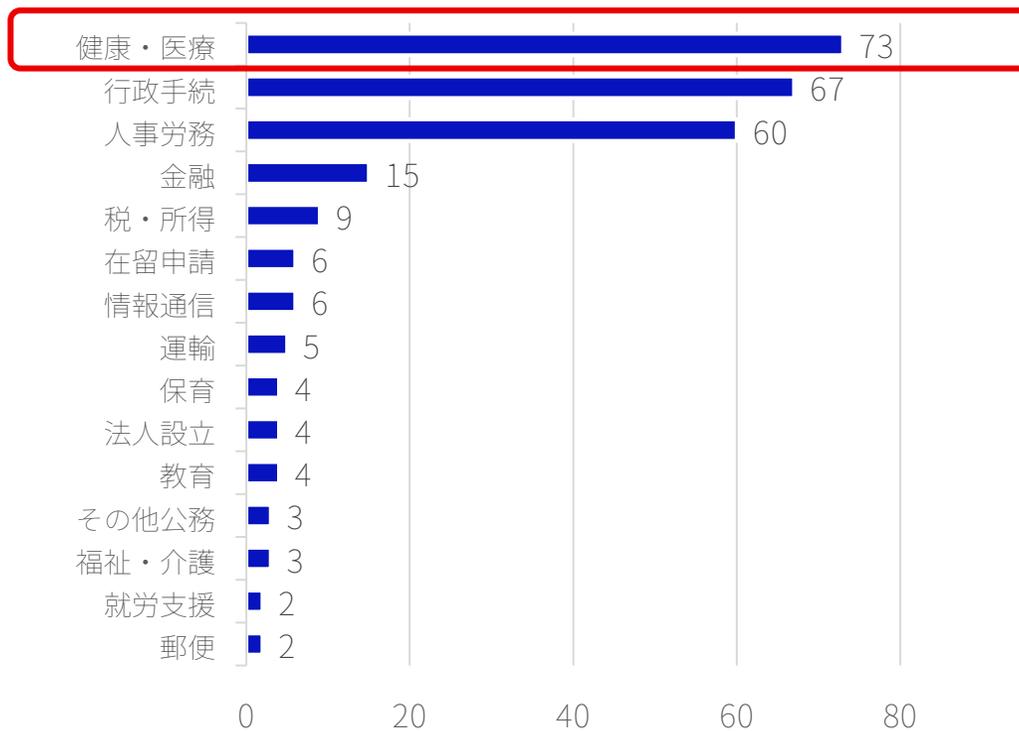
マイナポータルAPI利用の現状

- マイナポータルAPIを利用して民間企業等が提供しているサービスは267事業にのぼる
- また、利用可能なAPIについても、情報開示系のAPIとして期間連携API、PMH情報連携API、診療情報APIを追加、その他のAPIについても取得可能なデータの拡充を順次実施

2023.3時点：110事業



2026.3時点：267事業



マイナポータルAPIを用いた事業者サービス提供例

婚活サービス

- ・婚活アプリ利用の際に戸籍情報を連携することで、自身の独身証明が可能に
- ・利用API：自己情報取得API（戸籍関係情報）

ヘルスケア

- ・薬剤情報等の連携により、お薬手帳用QRを読み込まなくともPHRデータが一元管理可能に
- ・自動更新されたデータをもとに「服薬アラーム」などPUSH型の健康管理も可能に
- ・利用API：医療保険情報API（薬剤・健診情報等）

障がい者福祉

- ・交通チケットや有料道路の障がい者割引の適用について、障がい者手帳情報を連携することでオンライン上での手続を可能に
- ・利用API：自己情報取得API（障がい者手帳情報）

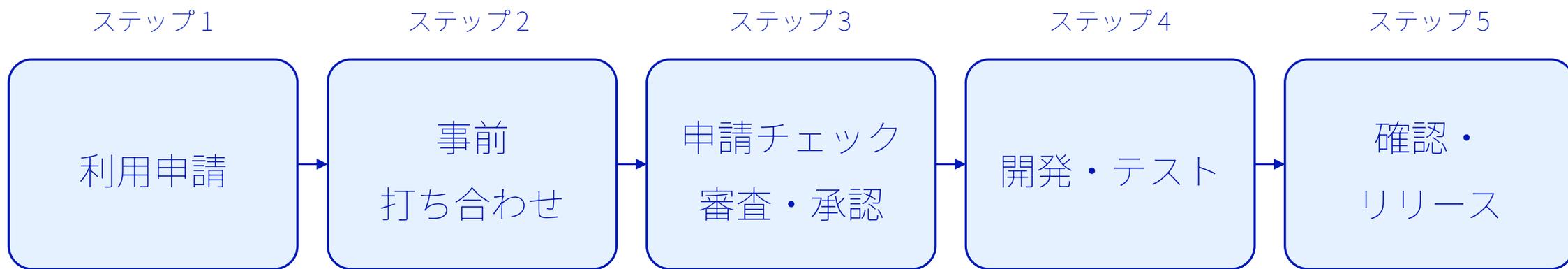
人事労務

- ・年末調整手続や所得税確定申告手続について、マイナポータルを活用して、控除証明書等の必要書類のデータを取得し、各種申告書への自動入力が可能に
- ・利用API：民間送達接続API

ローン審査

- ・カードローン・クレジット審査の際、所得情報をマイナポータルを通じて提出することで、収入証明の取得・提出が不要に
- ・利用データ：自己情報API（所得情報）

利用申請～サービスリリースまでの流れ



①[利用規約](#)、[利用したいAPIの概要](#)、ガイドライン、仕様書など関係書類を確認、サービス企画を検討します。

②[利用申請書](#)を作成し、[サイトからお申し込み](#)ください。

③利用申請書の内容及びサービスの概要等について、確認するため事前打ち合わせを行います。

※PHR関連の情報を取り扱う場合は、「[民間PHR事業者による健診等情報の取り扱いに関する基本的指針](#)」に基づき、総務省、厚生労働省、経済産業省も審査に加われます。

④申請書の内容について、デジタル庁で審査の上、承認書を発行します。

⑤デジタル庁との合意に基づいてシステム開発・接続試験等を行います。

⑥本番動作確認が問題なく行えたことを報告後、サービスリリースとなります。

マイナポータルAPIの利用審査

- マイナポータルAPIの利用申請があった場合には、デジタル庁による審査を関係省庁と連携して実施し、承諾した事業者等のみに対してAPIの利用を開放

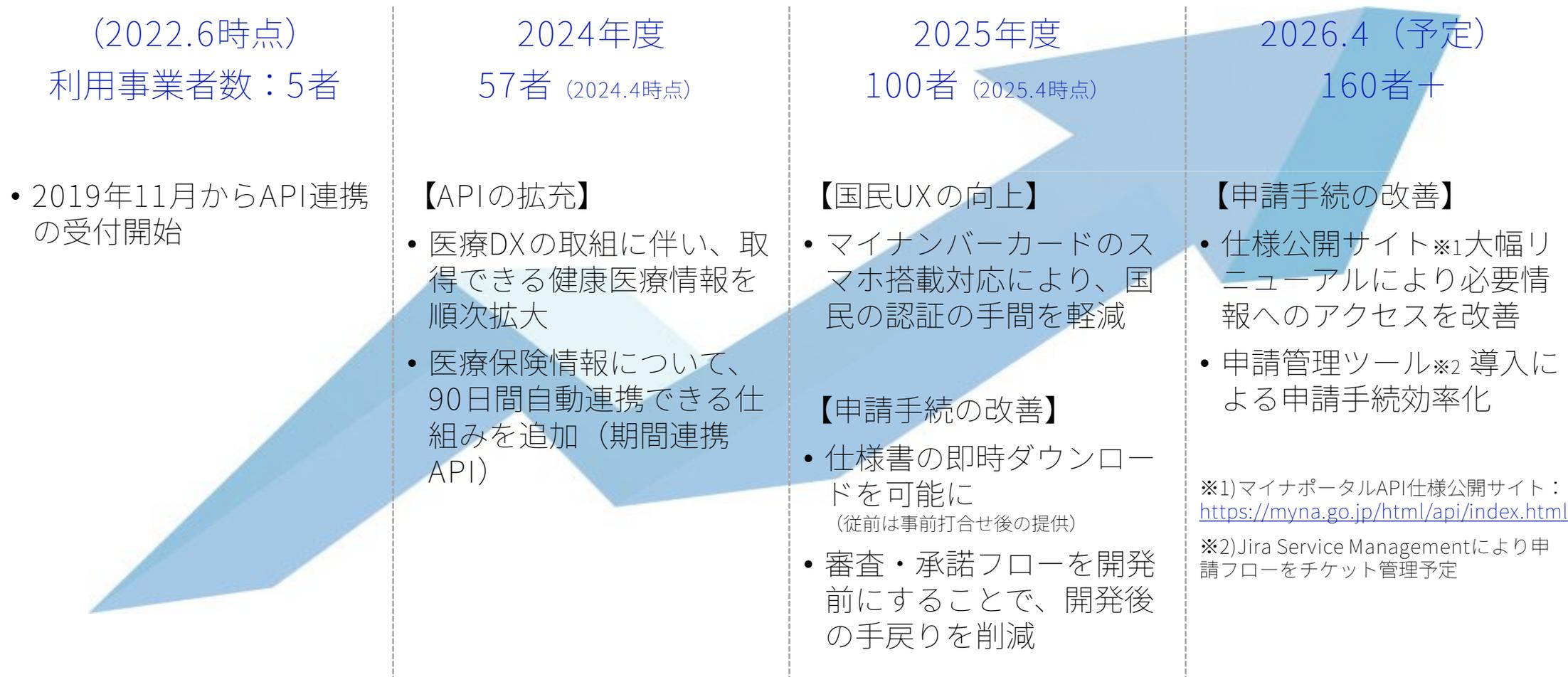
【主な審査観点】

主体適格性	形式的な要件に加えて、利用規約や利用ガイドラインの履行について責任を持てる主体かどうか	<ul style="list-style-type: none">利用規約等を踏まえて申請・審査に必要な十分な情報を提出できているかユーザーへの問い合わせ対応やデジタル庁との連絡調整等に必要な体制を整備しているか 等
利用目的	政府が提供するAPIを經由して取得する国民のデータを利用して行うサービスとして適切なものであるか	<ul style="list-style-type: none">提供機能等に応じた取得情報となっているか利用目的として社会通念上の相当性が認められるものとなっているか申請対象となるAPIを用いないと提供できない付加価値機能があるか 等
法令順守	利用規約等に特に規定していないものであっても、必要な関係法令を把握し適切に対応しているかどうか	<ul style="list-style-type: none">提供するサービスに関連する法令を自ら把握し、これを遵守する対応を行っているか個人情報保護法を遵守していることはもとより、セキュリティ懸念やユーザーの誤認を生むような導線・設計となっていないか 等

1. マイナポータルAPIについて

2. API利用拡大に係る取組状況について

情報開示系API 利用拡大に向けた歩み



APIの拡充①：対象データ項目の拡大

- マイナポータルで利用可能なデータは年々拡大
- 特に、健康医療領域においては、電子カルテ情報の共有が始まるなど、医療DX改革の中で国民に還元するデータが増加
- マイナポータルAPI経由で民間事業者が活用可能となるデータ項目が増加するに従ってPHRアプリの機能拡充も想定される

2024.3時点



自治体中間サーバー経由で取得していたデータ項目はあったが、Top画面からの直接導線として整理していたものは上記3項目。



※ 実証中の項目も含まれるため、右画像に記載のデータがすべてAPI経由で取得可能な状態ではない点留意
(今後項目の展開状況にあわせて順次開放を検討)

APIの拡充②：90日間自動連携できる仕組みの追加（2024年12月）

- 2024年12月、医療保険情報APIについて、データを一定期間継続的に更新できる期間連携APIをリリース
- 本機能の活用により、一層PHR事業者によるPUSH型等の健康管理体験の創出が進むことを期待

期間連携の仕組み	マイナンバーカードをかざして本人が同意することにより、マイナポータルAPIから民間のサービスに連携されるデータについて、 <u>一定期間継続的に更新</u> できる仕組みとします。
セキュリティ対応	マイナポータルから払い出されるリフレッシュトークンについて、 ① Single Use（1回使い捨て）モデルとする、 ② 同意取り消しや不正利用検知の際の無効化を実装する、 ③ 事業者側で保管する際の暗号化を徹する、 ことで、データの漏洩防止及び漏洩時の影響範囲の最小化を図ります。 併せて、本人が確認・撤回しやすい同意画面の実装を事業者に求めることとしています。
一度の同意により 連携可能とする期間	PHR事業者がプッシュ型サービスを提供する場合の体験水準と今回のセキュリティ対応でのリスクを考慮した合理的期間として、「 <u>90日間</u> 」といたします。
パフォーマンス（アクセス集中）への対応	1事業者あたりのtps（秒あたりアクセス要求）をポリシー上で制限し、この遵守を事業者に求めるとともに、API基盤側においても事業者ごとの流量の上限制御を行う仕組みを実装します。

【プッシュ通知】
電子処方箋情報が反映されました
服薬タイマーをセットします！



国民UXの向上：「iPhoneのマイナンバーカード」に対応（2025年6月）

「iPhoneのマイナンバーカード」または「Androidスマホ用電子証明書」を追加いただくと、暗証番号の入力と実物のマイナンバーカードの読み取りの代わりに、端末で設定された生体認証を使ってスムーズに認証

※ 「iPhoneのマイナンバーカード」での認証・本人情報の連携時の画面イメージ

認証

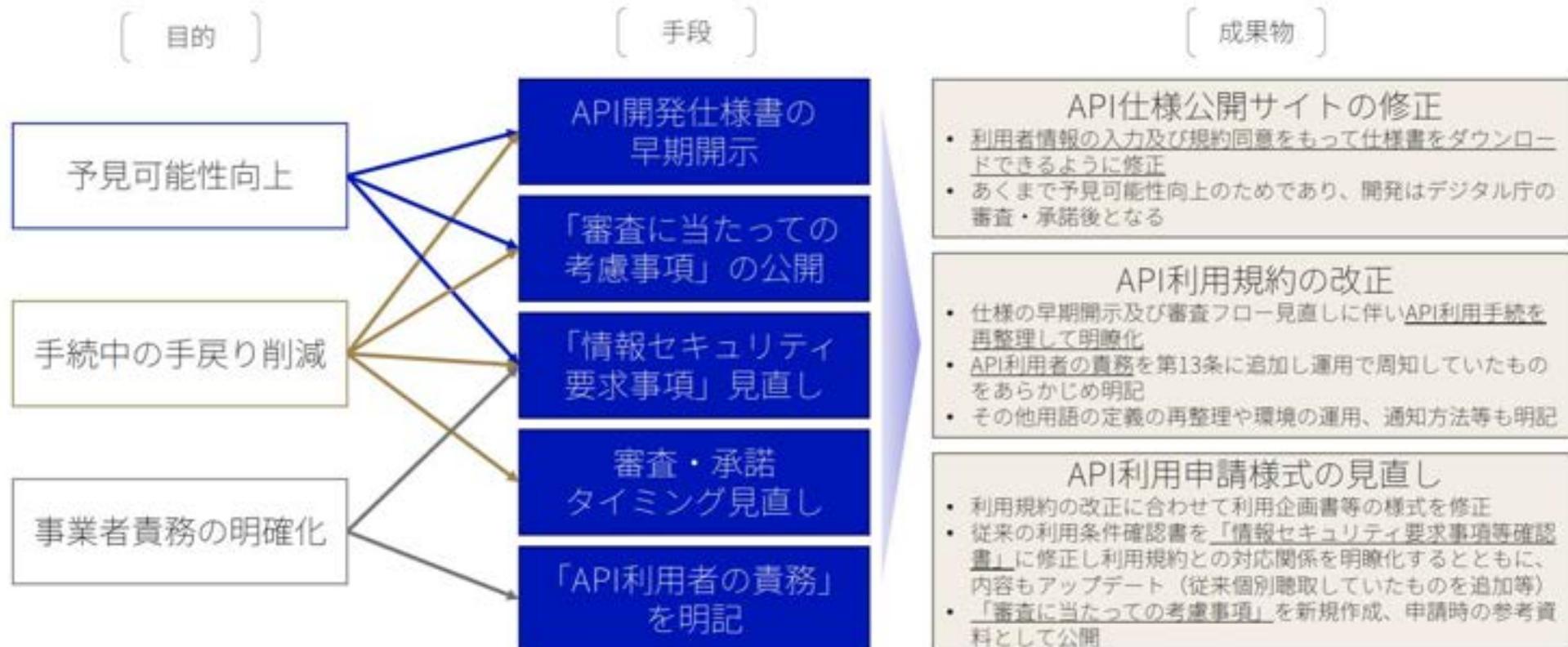


本人情報の連携



申請手続の改善①：仕様書の即時取得・手続フローの見直し（2025年4月）

- 2025年4月、マイナポータルAPIの利用規約改定を含む利用手続の改善を実施
- 本改善により、仕様書をサイト上からダウンロードできるようになるとともに、審査に当たっての考慮事項を公開することで、事業者の予見可能性を大きく向上させ、審査事務の効率化等を推進



申請手続の改善②：仕様公開サイトの大幅リニューアル (2026年4月予定)

現状



リニューアル後 ※イメージ



- ✓ デジタル庁の各種サイトとUIを揃えることで視認性を向上
- ✓ 画像イメージや、目次・リンクの追加により情報を見やすく再整理
- ✓ デジタル庁開発者サイトとリンクすることで、事業者が取得したい情報を集約
- ✓ Jira Service Managementの導入により申請管理を効率化



引き続きAPI利用拡大に向け環境整備を進めてまいります